群馬県立館林高等学校 同窓会報

懐しい桜並木

同窓会々報発刊によせて

同窓会長　岩瀬弥市

同窓会々報発刊にあたりご挨拶を申し上げます。

母校館林高校も創立八十周年を迎えようといたしております。このときにあたり同窓会も二十一世紀に向けて飛躍すると共に、同窓生の交流をより広く、より深くいたし心の絆を強くいたしたいとの願いのもとに今後活動を進めていきたいと思っております。

母校も八十年の歴史の中で、苦難のときもありました。しかしそれぞれの年代において教師と生徒が一体となり、又卒業生を始め地域社会のご支援をいただき、苦難をのりこえ現在では立派な伝統ある館林高校に成長いたしました。

卒業生も二万余名に及び、地元邑楽館林を始め全国各地、遠く国際社会においてもそれぞれの分野ですばらしい活躍をされており、私達の誇りであると同時に、在校生にとっても大きい励みになっておることと思います。

これから迎える二十一世紀に同窓会々報が同窓生の交流の広場となり、情報交換や友情を深めることに役立てばと願っております。

私はいつも思い心配しておることは現在程人と人との関係が薄くなっている時代はないと思います。

人間は人と人とのふれ合いによって成長するものだと思います。物とか金は一時の宝でありますが人の心は一生の宝であると言われております。

同窓生が心と心で結ばれ、苦難の多い複雑な現代社会の中で、共に励まし合い、助け合っていけるような同窓会であって欲しいと心から思う次第です。

最後に同窓生皆様のそれぞれの分野でのご活躍と母校館林高校の更なる発展を心からお祈りすると共に皆様の同窓会に対し格別のご協力とご支援をお願い申し上げ、同窓会々報発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

心のオアシスに母校訪問をどうぞ

校長　飯島祥佐

同窓会報の発刊おめでとうございます。会報は高校時代に想いを馳せ若い頃のパワーを呼び戻すきっかけに、また人生の一服の清涼剤になるものと思います。

さて、学校の現況についてですが、皆様の在学していた時代と現在の本校は大きく様変わりしております。昭和二十年代三十年代の本校は館林邑楽地区の子弟のための学校でしたが、四十年代には佐野足利の生徒が一割五分を占め、五十年代になると代わって太田新田地区の生徒が二割、六十年代には三割五分を占めるまでに広域化していきました。このように本校にも生徒の広域化と偏差値による序列化の波が押し寄せ、生徒の意識も地域の期待も以前とはかなり変化してきています。商業科は昭和六十年の館林商工高校開校とともに閉科され、現在、一学年が全日制普通科七学級、定時制普通科一学級の規模になっております。

このような時代背景のなか、生徒たちは大変頑張っています。この春の進路状況は国公立に四十五名合格（うち現役四十名）し、中でも東工大二名（現浪一名ずつ）東京外大二名（現浪一名ずつ）と頑張り、早大理工からも指定校推薦がくるようになりました。部活動では、今年は八つの運動部が関東大会に出場し活躍しました。中でもレスリング部が去年から団体で県優勝して復活し、ボート部と共にインターハイに出場し、レスリング部の二名は見事全国優勝を果たしました。平成十年代は館高躍進時代の幕開けにしたいものです。

ところで、創立当時からの松林や校門前の桜並木はいまも現存し、館高精神を育んでおります。母校訪問は皆様に青春時代の思い出を蘇らせてくれるものと思います。どうぞお出かけ下さい。クラス会のおり母校訪問を組み入れるのも良いと思います。予め連絡いただければご案内いたします。おわりに、皆様の益々のご発展をお祈りいたします。

各支部紹介

松東会（板倉支部）・大泉支部・千代田支部・太田新田支部・館高東京同窓会

松東会（板倉支部）

会長　荻野　次雄

昭和五六年四月、当時同窓会副会長矢口昇氏の肝入りで本校同窓会には時間的、空間的にも遠く集まれず、顔見知りで、親しく話し合え、板倉地区に関係ある人の集いを結成した。

会の名前は、学校の中の思い出の地「松林」と通学地域で一番「東」ということで「松東会」と決められた。地域の支部では最初である。

発足時の会員は、二三三名で、板倉町在住二一三名（正会員）、板倉町出身者八名（準会員）、賛同者一二名（賛助会員）であった。

行事は、新年会、総会、会報発行、親睦旅行、ゴルフコンペ等がある。

現在、ご多分にもれず、若い年代の人の集まりが少なく、苦慮しているところである。先日も事務局の人達と相談して、人集めの方策を話しあった。多くの意見が出されたが、結論は持ち越しとなった。また、行事のうち、集まりは新年会と総会の二回を何とか維持して行きたいと考えている。

これからも、皆様のご支援を仰がなくてはならないことが多々あると思いますので、よろしくお願いします。

大泉支部

支部長　河内　初光

大泉からは、赤城山がよく見える。浅間山も見える。男体山も見える。晴れた日には、秩父連峰や富士山も見える。そして、これらの山々は利根川の土手に上がるとより一層雄大に見える。幼い頃から眺めた故郷の景色だ。両親や気心の知れた昔の友も懐かしい。

大泉支部も、皆々様のご協力により順調に推移しておりますこと、まことに有難く厚くお礼申し上げます。

大泉支部は一九六三年（昭和三八年）に発足しました。初代会長は君島栄作先輩（昭和二〇年卒・在任二〇年）、二代会長は植木好治先輩（昭和二四年卒・在任二四年）、三代会長は河内初光です（平成一〇年一月就任）。

現在、大泉町在住の同窓生は約一〇〇〇名です（平成七年版名簿参照）。勤務先が大泉町である方や大泉町出身で他の市町村に在住している方々を含めると約二五〇〇名が支部活動に関係すると思います。支部活動はオープンですから、一人でも多くの方に、気軽に参加して頂きたいと思います。

昨年は、一月に総会兼新年会を開催し、新支部の会則制定、役員選任、事業計画、収支予算の承認など得ました。新年同窓会には、県内外の他市町村より遠路はるばる出席してくれた方もいて実に楽しいものでした。

今年も一月に総会兼新年会を盛大に開催しました。これからも皆で知恵を出しあって「安らぎと活力のある支部づくり」をしたいと考えてます。どうぞ宜しくご指導・ご鞭撻をお願い致します。終わりに、母校と同窓会の発展並びに皆々様のご健康を祈ります。

千代田支部

支部長　橋本　自郎

当支部は橋本自郎支部長を中心にして、本部副会長に山川博氏を出し、五〇〇名余の会員とともに精力的に活動しております。

毎年八月～九月にゴルフ大会やグランドゴルフ大会を開催しております。目的は会員相互の親睦を深め、日常の交際に役立てることとしています。また、その後より親睦を深めるため宴席を設け、高校時代を懐かしみ、そして明日の活力を生むため会員の皆様と一夜を楽しく過ごしています。

作年度の例を示すと

- **ゴルフ大会**（九月四日㈭　板倉ゴルフ場）参加数　約三〇名
- **グランドゴルフ大会**（八月三十一日㈰　東部運動公園）参加数　約三〇名
- **総会**（懇親会）（九月四日㈭　新田家）　参加数　約四〇名

いつも和気あいあいのうちにすべての行事が進行し、楽しい一日を過ごしています。

一人でも多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

役員を紹介しておきます。

＊＊＊

〈支部長〉
橋本　自郎（赤　岩）

〈役　員〉
関口　誠一（萱　野）
今泉　浩一（新福寺）
清水秀次郎（木　崎）
栗原　節男（天神原）
武井　章良（瀬戸井）

〈本部副会長〉
山川　博（赤　岩）

太田新田支部

支部長　瀬山　昭二

当支部は、平成三年八月三十一日に設立されました。当時の状況として、この太田新田地区から館林高校への通学者が急激に増えていたのであります。

ちなみに、平成元年度の当地区からの通学者数は、一年生151名、二年生143名、三年生127名、合計401名で、なんと全校生徒の四〇%ちかくを占めていたのであります。時代の変化に驚かされた次第です。

今後益々この地区の同窓生が増える。そして、その同窓のえにしを大事にしたい。そんな事から、平成二年八月三日第一回準備委員会が現瀬山昭二支部長を中心に開催され、その後、数度の準備委員会を経て上記のとおりのはこびとなったのであります。以下、各年度の活動状況です。

平成三年度　8月31日　設立総会
太田市民会館
講演「人生半ばで思うこと」
脚本演出家　大峰順二氏
（TVで活躍中、昭40年卒）

平成四年度　8月29日　定時総会
太田市民会館
講演「女に大和心があるか」
弁護士　森民光明氏
（昭和31年卒）

平成五年度　9月18日　定時総会
太田市民会館
講演「どうなる、これからの日本」
衆議院議員　谷津義男氏
（昭和31年卒）

平成六年度　8月27日　定時総会
太田市民会館
講演「将棋と人生」
将棋プロ六段　武者野勝巳氏
（昭47年卒）

平成七年度　9月9日　定時総会
太田市民会館
講演
法学博士・関東短期大学
教授　高木　侃先生

平成八年度　9月28日　定時総会
居酒屋なべさん
本年より懇親を主体にし、講演会を中止

平成九年度　10月24日　定時総会
居酒屋なべさん

平成十年度　8月28日　定時総会
居酒屋なべさん

太田新田支部結成後、以上のように活動して参りましたが、予算の関係上同窓生全員に案内をするすべもなく、大変申し訳なく思っておりますが、この会報発行を機に、支部の存在と活動をご理解頂き、本部同窓会と共に積極的に支部活動にもご参加賜りますよう、お願い申し上げます。

支部長
瀬山昭二（S20）常任理事
事務局
太田市飯塚町一四六六
イワマツ不動産（岩松満市）
電話〇二七六―四五―七二一一

館高東京同窓会

会長　鈴木　敏男

「故郷は遠くにありて思うもの」の例えの通り日頃鍋を削る東京に在住、在勤する者同志の集いだけに本校を軸とした結束、親密さがそうさせるのか理事（四五名）、役員（一七名）は三、四ヶ月おきに催していますが、その大半は集まり、花見の会（上野公園）、納涼会（上野精養軒屋上ガーデン）等も兼ねて懇親重点に出会いを大切にしております。

会員約一、〇〇七名、総会その他に出席される会員は平均八〇～一〇〇名前後、本年度総会も十八回目（年一回）で十月二十二日㊎に上野精養軒大宴会場で行われる手筈になっています。本校同窓会員の方々もご参加頂ければ大歓迎致します。

去る五月十二日㈬板倉ゴルフ場で行われたゴルフ同好会（中村副会長主導）には、本校同窓会、各支部、板倉会、空っ風会、同会コンペ場となった板倉近辺の各町役場にも呼びかけたところ六〇数名の同窓生が参加すると言う大コンペとなり、和気藹藹の中に交流を結ぶことが出来ました。本校同窓会役員・校長先生はもとより、ゴルフをやらない地元の同窓生もパーティーに駆けつけて頂き感激した一幕もありました。

兎に角、同じ館林、邑楽地方に生まれ育ち、本校の学窓を出て東京に住み若くは仕事をすると言う学縁・地縁にしっかりと繋がれている我々東京同窓会ですので、昨今の厳しい経済環境の中、お互いに励まし合い協力し合って頑張り抜こうと誓い合わしている今日この頃であります。

本校同窓会も岩瀬新会長の体制の下に、新生同窓会作りに邁進されておるとの事、活気に満ちた会が出来上がるであろうと頼もしく期待しております。

伝統ある本校あっての我々東京同窓会ですので、県下の他校に遜色のないより理想的な会が出来るであろう事を祈念してやみません。

十一月十三日の総会には東京同窓会からも出来るだけ多くの参加を予定しております。

恩師の近況

思い出

飯島　徳治

館高同窓会々員の皆様、館高時代の私は勝手なことばかり、別れてみると会員の皆様の温かいものに触れ、素直に受け止めております。会報に何か「思い出」と言うので、私の在職（昭和十八年〜昭和四十五年）の二十八年間の、前後の過去を回顧してみました。

まづ師範卒業間近に鉄棒で「蹴上り」が出来なかったので教員資格は認められないと「厳なる注意」、その後やっとの事で卒業資格を認められ、学校時代は寄宿舎生活でボールを洗い拭いて枕元において寝たと評判。

小学校に奉職できた時、誠に嬉しかった。これからは「昼食後必ず鉄棒に懸垂運動を！」と誓った。

昭和六年二月の雪の日の昼休、長靴で鉄棒上の雪を払い「吊り下り振っているうちに」「蹴上り」見事出来た。『成功第一歩』。

昭和十二年群馬県教員器械体操大会で鉄棒種目「逆手蹴上り→逆大車輪→正大車輪→宙返り下り」成功優勝。恩師に報恩し、肩を叩いて祝福してもらった思い出。

昭和十七年秋、文検合格。

昭和十八年大村校長先生のお迎え承けて館林中学校に奉職。

※外国スポーツ追放令（ユニホーム、パンツ、靴を焼き捨てる）

昭和廿年四月三日夜、爆撃。南校舎運動場、美しかった学校を囲む老松の松林吹飛び、爆弾の大穴（直径10ｍ・深さ５ｍ）西南方向に（十六）。

八月十五日終戦。マッカーサー元帥の宣言文をよむ。厚木基地での「外国スポーツ解放令」をきく。

昭和廿一年、爆撃地跡にサッカー場を設置する。校長先生と意見一致。「やりましょう」。有志愛好者達とサッカー同好会を組織し、跡地開拓整地開始。汗と苦しい作業の中で少しでも平地が出来れば「蹴る」「パス」のボール遊び、竹のゴールが出来れば「シュート」。汗と作業苦の中でボール遊びに耐る事実を知った。将来のサッカー指導・練習に大きな希望を望みた。

昭和廿四年四月廿三日、館林南小学校で会長・遠藤仁之輔（館林市長）、参与・柴田富伍・小室砂糖店長（東工大サッカー部主将）、理事長・飯島徳治（館高教諭）、群馬県サッカー協会創立宣言。次に館林高校サッカー歴・参加（全国大会出場）。

昭和廿九年、北海道国体初参加、岩見沢市、一回敗。

昭和卅二年、静岡県国体、藤枝市、二回敗。

昭和卅三年、富山県国体、高岡市、全国四位。

昭和卅三年、大阪西の宮全国高校サッカー大会、一回敗。

昭和卅四年、東京都国体、全国五位。

昭和卅五年、熊本県国体、松橋町、二回敗。

昭和卅五年、大阪西の宮全国高校サッカー大会、二回敗。

昭和卅六年、秋田県国体、仁賀保町、一回敗。

昭和卅七年、大阪西の宮全国高校サッカー大会、二回敗。

昭和卅八年、山口県国体、小野田市、全国五位。

昭和四十一年、大分県国体、別府市、二回敗。

昭和四十一年、青森県高校総合体育大会、十和田市、一回敗。

昭和四十二年、福井県高校総合体育大会、三国芦原市、二回敗。

国　体	八都道県	八回	十三回
大阪西の宮	全国高校大会	三回	
高校総合	体育大会	二回	

在職二十八年、特にその十四年間サッカー部の活躍、昭和廿九年から昭和四十二年、北関東・関東代表として参加し、選手達は真摯な態度で技・力、そして精神力を発揮し、その都度大会に参加し、悔なしと信頼している。若し不振あれば、それは監督の研究不足にあると思う。

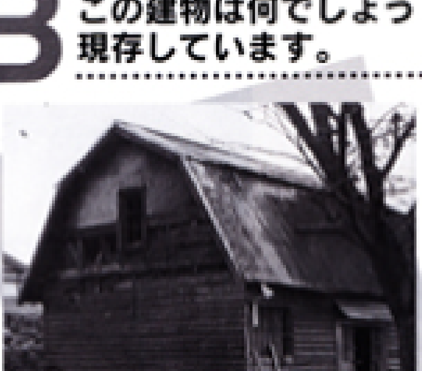
私も若かった。失敗・成功の繰り返し。特にこの終戦を如何に切り抜けるかの心労には、大村校長先生の寛大なる態度。遠藤サッカー協会長に縋り…そのおかげで現在全国にその友と思い出のよすがとして止めておく。

幸い館高サッカーの健在

今生ある九〇歳

ハテナクイズ？ Quiz

Question **B** この建物は何でしょう？ 現存しています。



Question **A** この建物は何でしょう？

〈問題の答えは８面に掲載〉

～あの頃この頃～

▲松林より校舎を望む

▲古代ロマンの花ひらく万葉植物園の大賀ハス
2000年前の種から育てられた古代蓮

▲現在の玄関

▲旧玄関

▲旧正門

▲現在の正門

▲昭和10年代の学舎

▲現在の学び舎

学校はいま

進路状況

本校の進路状況は、ここ数年右肩上がりの上昇をしている。国公立大合格者数も昨年、今年ともに40人台をキープしており、大学現役進学率も77％と大変高い。

■11年度合格状況（現役のみ）

【国公立】（40名）

群馬大14　東工大1　東外大1　電通大1　学芸大1　千葉大2　新潟大2　埼玉大2　宇都宮3　茨城大2　高経大2　前工大3　他6

【私立大】（504名）

早大1　明治大3　法政大11　中央大12　理科大9　芝工大11　武工大6　青学大3　日本大27　東洋大35　専修大10　獨協大12　大東大23　東電大8　他333

【短大】（3名）

【専修】（24名）

【就職】（4名）

部活動状況

■運動部■

恵まれた環境で 活躍を続ける部活動

質実剛健の校風のもとに歩み続けた本校では、校庭西側の赤松林と正門前の桜並木は、同窓生にとって思い出深い景観と思います。昭和三十二年に、万葉集に登場する植物を集めた万葉植物園には、古代ハスが薄桃色の花を咲かせ、見る人達の心を万葉の世界に誘ってくれる。緑豊かな広大な校庭、二つの体育館、恵まれた環境で運動部・文化部の部員は、元気に活躍を続けている。特に群馬をリードして来たレスリング部・サッカー部・昭和五十五年に新設されたボート部は、全国大会を目指し努力を重ね活躍した。最近の昭和五十三年から約二十年間に顕著な成績を残した部と選手を紹介致します。

【レスリング部】

県高校総体での団体優勝は、昭和五十三～五十五年・五十八～六十二年・平成十～十一年。インターハイでは、団体戦で昭和五十七・六十一年に第二位。個人戦で昭和五十六年に高際、五十八年に高際・松本、六十一年に茂木・関、六十二年に山口、平成七年に狩月、十年に長島和選手らが第二位となり、平成七には長島康選手が優勝した。また、平成十一年の全国選抜では、個人戦で長島正・長島和の兄弟が優勝した。国体では、昭和五十七年に川島、五十八年に松本・五十九年に鈴木、平成七年に長島康・狩月、十年に長島和選手らが優勝した。

【ボート部】

インターハイでは、昭和五十八年にSSで伴場が優勝、平成四年にSSで須永が六位、十年にSFで四位。国体では、昭和五十八年にSSで伴場が優勝、平成元年にSSで小島が七位。関東大会では、平成八年にSSで有賀が三位、九年にSFで二位、十一年にはSFで五位、SSで岡野が優勝した。

【ソフトテニス部】

昭和六十年に家富・赤坂組、平成三年に五十嵐・茂木組がインターハイに出場。昭和六十二年に堀越、平成七年に山本が国体に出場した。

【陸上部】

インターハイでは、昭和五十六年に走高跳で橋本が出場、五十七年四〇〇mで村田が四位、六十三年に一〇〇mで堀越が出場した。国体では、昭和五十七年に四〇〇mで村田が四位、六十三年に一〇〇mで堀越が出場した。

【軟式野球部】

関東大会では、昭和六十三年に準優勝、平成四年三位となった。

【水泳部】

平成六年に一〇〇m自由型で荒木が国体で三位となった。

【体操部】

平成元年に長谷見がインターハイ、国体に出場した。

【サッカー部】

昭和五十四年に県選手権大会で準優勝、昭和五十六年、平成四年、六年、七年には県大会でベスト4に進出した。

【第三十四回群馬県高等学校総合体育大会】

今年度の大会は、七月十五、十六、十七日の三日間、前橋市を中心に開催され、本校は十七の競技に参加し白熱した競技を展開した結果、レスリング部・ソフトテニス部・登山部・体操部・空手部・陸上部・ボート部・水泳部の八部が関東大会の出場権を獲得しました。

■文化部■

部活動は何かと運動部の成績に目が向いてしまいがちですが、文化部もそれぞれ個性を発揮し、文武両道の実績を残しています。

【弁論部】

ご存じの通り本校弁論部は生徒会との主催で、「全国高等学校決勝弁論大会」を毎年秋に行っています。全国各校から集まるこの大会の準備ホスト校として頑張っています。

少数精鋭のメンバーですが、他の別の大会でも関東・全国大会でも定期的に上位入賞、時には優勝も果たしています。文化部の柱の一つとして伝統を受け継ぎながらやっています。

【吹奏楽部】

本校吹奏楽部は、県のコンクールでも、着実に銀賞以上の成績を残すなど安定した力を付けています。学校行事（入学式、卒業式、壮行会）、その他定期演奏会にも取り組んでいます。

【囲碁・将棋部】

地道に自主的な活動をしており、そんな中で、各大会に出場し、時には優勝など頑張っています。

【その他の部】

その他にもJRC部、美術部など、それぞれ意欲的に自分達の目的を持って取り組んでいます。

以上が活躍の足跡ですが、部員の努力と顧問教師の献身的な指導の結果です。最近、進学率が上昇し、途中退部者が多くなって、部活動と勉強をどう両立させていくか、大変な問題をかかえている。しかし、自分に厳しく接し、生活のリズムを確立させ文武両道をなしとげて、高校生活を充実したものにするための努力をしている生徒も、本校には多数おり、今後、このような生徒が増加するように、教師も生徒と協力し、一体となって努力していくことが、学校全体を活気あるものにすると信じます。

▲レスリングの長島兄弟
インターハイで全国優勝！（H11.8.4）

▲定時制創立50周年記念式典
H10.11.25　於 館林文化会館小ホール

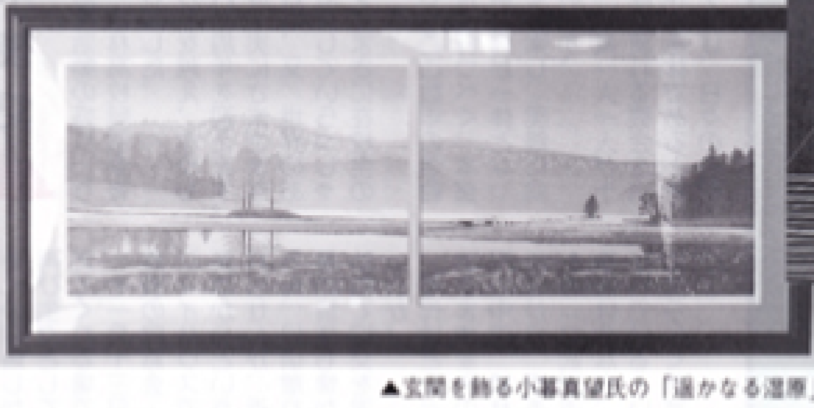
宗　次郎さん 後輩へ演奏会

◀熱演中の宗次郎さん

世界的なオカリナ奏者として活躍されている宗次郎さん（昭和48年本校卒）は昨年６月本校生徒にたいして「トークと演奏」を披露してくださいました。これは毎年行っている開校記念行事にお呼びしたもので、宗次郎さんは高校時代の思い出やオカリナとの出会いなどを淡々と話されたのち、素朴ななかにも優雅な音色で自作曲など八曲を演奏されました。生徒たちもしんみりと聞き惚れてしまい、さすがプロはいまの若者の心も引きつけるものだと感心しました。宗次郎さんはＮＨＫ特集「大黄河」サウンドトラック担当、日本レコード大賞企画賞の受賞、世界初のオカリナ協奏曲の大成功、映画「良寛」の音楽監督、「宮沢賢治生誕百年特別公演」吹奏など輝かしい活躍をされています。現在もシングルやアルバムの発表、演奏活動等で多忙のなか、後輩のために来校して下さいました。

校内を飾るＯＢの芸術作品

▲広瀬義之氏の「面取壷」



▲玄関を飾る小暮真望氏の「遥かなる湿原」

殺風景な男子校にうるおいをと、校内のあちらこちらにＯＢ芸術家の秀作が展示され、生徒にとってホッとする空間が生まれている。校長は「感じる心を育てたい。芸術作品に囲まれた学校にしたい。さらにＯＢの協力をいただきたい。とのこと。今展示してあるのは次の方々の作品である。

飯田善國氏のリトグラフ、安田保之氏の絵画、三瓶昭蔵氏の絵画、福田良男氏の絵画、田部井健二氏の陶器、永井清司氏の絵画、小暮真望氏の版画、広瀬義之氏の陶器、石井清夫先生の絵画、石野安親先生の絵画、谷田貝修先生の絵画、野本正彦先生の絵画。

平成十一年度 同窓会本部役員

名誉会長　廣澤　純孝（十一年卒）
参　与　谷津　義男（二十八年卒）
　　　　矢口　昇（二十五年卒）
　　　　安楽岡一雄（四十一年卒）
　　　　松本　耕誌（三十八年卒）
顧　問　渡辺利三郎（三年卒）
　　　　飯島　祥佐（母校校長・三十四年卒）
会　長　岩瀬　弥市（二十五年卒）
副会長　橋田　基利（十七年卒）
　　　　小磯　泰男（二十六年卒）
　　　　宇治川福司（二十七年卒）
　　　　山川　博（二十九年卒）
　　　　岩崎　健典（三十四年卒）
　　　　河本　栄一（三十六年卒）
　　　　山崎　浩志（二十八年卒）
　　　　山崎　稔（三十二年卒）
　　　　前山　秀樹（三十七年卒）
　　　　大隅　允雄（三十八年卒）
監　事　塩田　栄（十八年卒）
　　　　高木貞一郎（二十七年卒）
　　　　橋本　清（四十一年卒）
事務局（本校）
　　　　平田　一秀
　　　　岡野　正
　　　　関沢　浩
　　　　増山　晏臣
　　　　堀越　健
　　　　鷲尾　晃司

○会報希望の方は

同窓会会報は今後毎年九月一日に発行する予定です。今回は復刊記念として会員全員に発送しましたが、次回からは経費の都合で、希望者にのみお送りいたします。

会報送付希望の方は、同封の振替用紙で「年会費一〇〇〇円を納入」してください。翌年の会報をお送りします。

○学年同窓会、部活後援会活動紹介コーナーに情報提供を

次号（十二年九月一日発行）から、学年同窓会やクラス会、部活動の先輩後輩の会合等を紹介する欄をつくりたいと思います。近々行われました会の情報や写真等を六月末までに送ってください。予告でも結構です。会報の充実にご協力ください。

○写真や資料を貸してください

会報発行や校史編纂のために、旧中学時代や高校時代の写真や資料を探しています。もし手元にありましたら、何なりともお貸しいただきたいと思います。複写して直ちにお返しします。よろしくお願いいたします。

事務局より

新「館高同窓会総会親睦会」に参加を!
「300人同窓会の実現」を!

同じ釜の飯を食った友に会え、18歳頃の話しに花が咲く
年に一度位、若い頃を思い出しなつかしむのも良いもの
そしてあの頃のパワーをもう一度と奮い立つのも良いのでは

日時：平成11年11月13日(土)　午後４時～
会場：ジョイハウス（館林市）TEL.0276-73-4669
〈事前に参加券切符を購入のうえ、参加ください。〉

マンネリ化傾向にあった本部同窓会総会、新年互礼会も、活発な支部活動に触発されて、今年から年一回の「総会親睦会」として生まれ変わることになりました。総会のスリム化、切符制の導入、総会幹事の委嘱などの工夫、さらに、同窓生は丸テーブル毎になりゆっくり話せるなど配慮してあります。９月中旬には総会幹事により参加券切符が市中に出回りますのでご協力をお願いします。（切符は5000円、事務局にもあります）

編集後記

この度、同窓会活動の盛り上りの一環として、館林高校同窓会報の発行が実現しました。

卒業生も三万名を越え、本校もまもなく創立八十周年を迎えます。卒業生の中には、実にさまざまな分野で、全国各地、又、世界のあちらこちらで活躍していらっしゃる人達がいます。まさに在校生の励みです。

本校としても、ここ数年の活動の停滞に終止符を打つべく、本部役員、校長、事務局が一体となって種々の活動を提案し、実践に向けて努力しています。

同窓会とは、会員一人一人が十五歳から十八歳に戻れる機会を出来るだけ多く作る母体であると考えます。ともすれば、日々の日常性に埋没しがちな個性をあの青春時代の謳歌しかった夢に浸して、再び生々として生活する元気を与えてくれる場であろうと思います。

十一月十三日（土）には三百人規模の同窓会・懇親会が館林市のジョイハウスで催されます。全国各地からというのは難しいかも知れませんが、近隣の同窓生はもちろん、日頃離れて生活している会員の皆様も懐かしい館林の土地を訪ねて旧交を温めてはいかがでしょうか。

時代はどんどん変わり、社会もますます変化の度を増している状況の中で、館林高校も、歴史を重ねながら、東毛の中心校として、あの「文武両道」、「大器晩成」の精神は今なお、綿々として受け継がれているという事を会員の皆様に誇らしく宣言して筆を置きます。

（記・平田）

平成11年度　行事計画

［平成11年］

4月 7日	入学式
4月30日	本部役員会
5月22日	同窓会総会
7月 3日	松東会総会
8月28日	太田、新田支部総会
9月 1日	同窓会報発行
9月 5日	千代田支部総会
10月中旬	東京同窓会総会
11月初旬	本部役員会
11月13日	館高同窓会（総会親睦会）

［平成12年］

1月初旬	松東会新年会
1月下旬	大泉支部総会
2月29日	同窓会入会式
3月 1日	卒業式

発行／群馬県立館林高等学校同窓会　〒[illegible]　群馬県館林市富士原町一二四一　TEL 0276（72）4307

〈4面パチクイズの答え〉　A．大正11年創立当時の校舎正面。正門附近に桜が植えられている。　B．昭和21年当時の部活動。現在は運動用具庫として使用。